

God With Us

Part 8: Jesus

Message 6 – Two Interviews: Jew and Samaritan

John 3 and 4

神は我らと共に

パート8：イエス様

第六メッセージ - 二つの会談：ユダヤ人とサマリア人

ヨハネの福音書第3－4章

はじめに

北部ガリラヤにおけるイエス様の任務に先立ち、ヨハネの福音書だけが南ユダヤにおける初期の任務について記している。その時代には、ヨハネが記録した2つの重要な会談があった。ユダヤ人の指導者ニコデモとイエス様の会談の中で、イエス様は、宗教指導者でさえ、イエス様にしか与えることが出来ない新しいのちの贈り物を受けると必要があると言われた。イエス様とサマリア人の女のより長い会談の中では、私たちがどこに満たしを探し求めようが、最も深い渴望の満たしは、イエス様が提供して下さる贈り物の内のみに見出せる。これらの2つの会談を真っ先に記したヨハネの目的は、読者が2つの「実話」を通して、イエス様のメッセージを理解出来るようにするためであった。

イエスとニコデモ：ヨハネ3：1－21

パリサイ人のひとりで、その名をニコデモというユダヤ人の指導者があった。この人が夜イエスのもとにきて言った、「先生、わたしたちはあなたが神からこられた教師であることを知っています。神がご一緒でないなら、あなたがなさっておられるようなしは、だれにもできはしません」。
(ヨハネの福音書3：1，2)

ニコデモは、おそらくイエス様に反対する、サンヘドリン(ユダヤ人の最高議会)を恐れていたもので、夜に訪れたと考えられる(7：45-52，19：38-42)。最初の言葉は、サンヘドリンが早期にイエス様について考えていたこと(奇跡の働き者/神からの教師)についての洞察を与えている。イエス様は、導入細部を迂回され、ニコデモの宗教以上の何か個人的必要性の真実へと直行された。

イエスは答えて言われた、「よくよくあなたに言うておく。だれでも新しく生れなければ、神の国を見ることはできない」。(ヨハネの福音書3：3)

ニコデモはパリサイ人であった。この超保守的な宗教的純粹主義者は、救いがモーセの律法(および追加で「長老の伝統」)を厳格に守ることを信じて来た。イエス様のみことばは、ニコデモが信心深く、ユダヤ人の宗教界(上位70人のリーダーの1人)に立っているために、天国に運命づけられていると信じていたので、衝撃を受けたに違いない。彼の質問/回答は、「新しく生まれなければならない」についてのイエス様の言葉に対する混乱を明らかにしている。

ニコデモは言った、「人は年をとってから生れることが、どうしてできますか。もう一度、母の胎にはいつて生れることができますでしょうか」。(ヨハネの福音書3：4)

肉体的な出生と霊的な出生を比較して明らかにされたイエス様：

イエスは答えられた、「よくよくあなたに言うておく。だれでも、水と霊とから生れなければ、神の国にはいることはできない。肉から生れる者は肉であり、霊から生れる者は霊である。あなたがたは新しく生れなければならないと、わたしが言ったからとて、不思議に思うには及ばない。風は思い

のままに吹く。あなたはその音を聞くが、それがどこからきて、どこへ行くかは知らない。霊から生れる者もみな、それと同じである」。(ヨハネの福音書3:5-8)

「新生する」とは「上から生まれた」と言い換えることが出来る。新生児と霊的な赤ちゃんは、両者とも産まれた。一方は母親の苦しみを通して(ヨハネの福音書16:21)、また一方は、私たちの罪を負ってくださったイエス・キリストの十字架の苦しみを通して(イザヤ書53:11)。キリストを信じて「霊から生まれた」人は、キリストの罪の支払いによって、赦され、再び生まれたので、神の家族の中に「新しく生まれ」る。

「霊から生まれた」ということは、「キリストの霊」、すなわち聖霊の奇跡的な介入であり、私たちが信じる時、私たちに入り込んで下さる。「誰にもキリストの御霊がなければ、キリストに属しない。．．．御霊みずから、わたしたちの霊と共に、わたしたちが神の子であることをあかしして下さる(ローマ8:9, 16)。使徒ペテロは、次のように書いている:「私たちは生きる希望に対して再び生まれました」(第一ペテロ1:3)。今生れたばかりの乳飲み子のように、混じりけのない霊の乳を慕い求めなさい。それによっておい育ち、救いに入るようになるためである(第一ペテロ2:2)。

ニコデモは、まだイエス様が言うておられることを理解していなかった。

ニコデモはイエスに答えて言った、「どうして、そんなことがあり得ましようか」。イエスは彼に答えて言われた、「あなたはイスラエルの教師でありながら、これぐらいのことがわからないのか。よくよく言うておく。わたしたちは自分の知っていることを語り、また自分の見たことをあかししているのに、あなたがたはわたしたちのあかしを受けいれな

い。わたしが地上のことを語っているのに、あなたがたが信じないならば、天上のことを語った場合、どうしてそれを信じるだろうか。天から下ってきた者、すなわち人の子のほかには、だれも天に上った者はない。そして、ちょうどモーセが荒野でへびを上げたように、人の子もまた上げられなければならない。それは彼を信じる者が、すべて永遠の命を得るためである」。(ヨハネの福音書3:9-15)

イエス・キリストは、ニコデモがよく知っていたであろう旧約聖書の「死と新生」の話を用いられた(民数記21:4-9)。イスラエル人が神に罪を犯したとき、神は毒蛇を送られ、蛇は人々に噛みつき、彼らは死にそうになった。しかし、神の優雅な備え、すなわちポールの上の青銅の蛇を見て、癒され、新しい命が与えられた。イエス・キリストは、その例を明らかにされた。人々が彼を見て(信じて)、彼らが新しい人生を受け取るために、イエス様は「持ち上げられる」(ポールの上=十字架上)。この話を通して、イエス様は、新しい誕生の必要性を、宗教指導者であっても、ニコデモに明らかにされた。すべての人が罪の問題によって毒が注入されているが、十字架につけられた救い主に目を向けるすべての人に新しい命の賜物(霊的な新生)が与えられる。

聖書の中で最も有名な詩が、ニコデモとのこの討論の文脈にある。議論全体をまとめたものです。

神はそのひとり子を賜ったほどに、この世を愛して下さった。それは御子を信じる者がひとりも滅びないで、永遠の命を得るためである。神が御子を世につかわされたのは、世をさばくためではなく、御子によって、この世が救われるためである。彼を信じる者は、さばかれぬ。信じない者は、すでにさばかれている。神のひとり子の名を信じることをしないからである。(ヨハネの福音書3:16-18)

神の愛という世への贈り物 = 神の御子

贈り物への応答 = 彼を信じる (ヨハネの福音書の中で98回用いられている)。

信じた結果 = 永遠の命 (裁かれない、滅びない)。

信じない結果 = 有罪判決。

ニコデモスが夜にイエスに会いに来たことを思い出しましょう。終わりの句は、人々が神から隠れるために暗闇をいかに用いるかについて語っている。

そのさばきというのは、光がこの世にきたのに、人々はそのおこないが悪いために、光よりもやみの方を愛したことである。悪を行っている者はみな光を憎む。そして、そのおこないが明るみに出されるのを恐れて、光にこようとはしない。しかし、真理を行っている者は光に来る。その人のおこないの、神にあってなされたということが、明らかにされるためである。(ヨハネの福音書3:19-21)

ニコデモは、イエス様との会談の後、多くのことを考慮し、後にイエス・キリストを受け入れた。イエス様が公平な裁判を受ける権利を守ろうとした(ヨハネの福音書7:50-52)。そして、イエスの死後、光の内に、イエス様のために名誉ある墓を提供した(ヨハネの福音書19:38-40)。

多くの人々は、その必要性を知らない。「再生」という表現を皮肉る人もいる。しかし、この表現を生み出されたのはイエス・キリストであった。そして、それは神の王国に入るために必要な条件であると言われた。宗教的な所属や自分の善行に頼るだけでは不十分なのである。単に神が存在すると信じるだけでも不十分である。あなたの罪のために、死んで

くださるために十字架の上に上げられたお方を信仰の目で見上げることが不可欠である。あなたは新しく再生されたでしょうか? そうでない場合、イエス様の主張を噛みしめ、イエス様の愛を理解するために共に歩んでくれる人を求めましょう。

イエス様とサマリア人の女：ヨハネ第4章

敬虔なユダヤ人の男との夜間の会談の次に、ヨハネは、サマリア人の女と正午の会談について記した。頭の固いパリサイ人の敵意と疑いのために、イエス様がユダヤを去られたことが興味深い(4:1-2)。受け入れる心がある人たちのいる地域に向かわれた。

ユダヤを去って、またガリラヤへ行かれた。しかし、イエスはサマリヤを通過しなければならなかった。そこで、イエスはサマリヤのスカルという町においでになった。この町は、ヤコブがその子ヨセフに与えた土地の近くにあったが、そこにヤコブの井戸があった。イエスは旅の疲れを覚えて、そのまま、この井戸のそばにすわっておられた。時は昼の十二時ごろであった。(ヨハネの福音書4:3-6)

イエス様は、サマリアを通過される必要はなかった。多くのユダヤ人は、サマリア経由で近道を利用したが、敬虔なユダヤ人は、しばしば、サマリア人の土壌によって汚されないために、サマリヤを避けて北から南へ移動した。サマリア人は、アッシリア人の北部10部族(紀元前727年)侵略によって生じた混血人種であったので、イスラエルのユダヤ人は軽蔑していた。そこには、イエス様が合う必要があった女と、イエス様のメッセージを聞くために心が整えられていた村の人々がいたので、サマリヤを通過「しなければ」ならなかつ

た。スカルという町の郊外で、イエス様は、旅の疲れを覚えられて、ヤコブの井戸に座られた。

ひとりのサマリヤの女が水をくみにきたので、イエスはこの女に、「水を飲ませて下さい」と言われた。弟子たちは食物を買いに町に行っていたのである。すると、サマリヤの女はイエスに言った、「あなたはユダヤ人でありながら、どうしてサマリヤの女のわたしに、飲ませてくれとおっしゃるのですか」。これは、ユダヤ人はサマリヤ人と交際していなかったからである。（ヨハネの福音書4：7-9）

女は村から一人で歩いて、その日の必要な水を汲みに来た。なぜユダヤ人の教師がサマリヤ人の女に飲み物を求めるのか完全に困惑した。弟子たちも、イエス様はその女に話すのを見て驚いた（4：27）。ユダヤ教指導者たちは、「律法の言葉が女に届けられるよりも、焼き尽くす方がましである。」と言ったが、イエス様は、そのような偏見に同意されなかった。

イエス様は、決して障壁を越えることを躊躇されなかった。すべての人々は、神に似せて造られ、深く平等に愛しておられた。多くの文化は、性別、人種、国籍、政治的所属、所得水準、人気などの問題によって分裂してしまっている。イエス様の模範によって、障壁を越えてイエス様の愛を示すように動かされましたか？今週、誰にイエス様の愛を示すことができますか？彼らに困惑されても驚かないように！

イエスは答えて言われた、「もしあなたが神の賜物のことを知り、また、『水を飲ませてくれ』と言った者が、だれであるか知っていたならば、あなたの方から願い出て、その人から生ける水をもらったことであろう」。（ヨハネの福音書4：10）

ニコデモの時と同様に、イエス様は、サマリヤ人の女とより深い話題に従事させる時間を無駄にされなかった。イエス

様が持つておられる救いの賜物を受け取ってほしいと願われた。「生ける泉」という霊的賜物である。

女はイエスに言った、「主よ、あなたは、くむ物をお持ちにならず、その上、井戸は深いのです。その生ける水を、どこから手に入れるのですか。あなたは、この井戸を下さったわたしたちの父ヤコブよりも、偉いかたなのですか。ヤコブ自身も飲み、その子らも、その家畜も、この井戸から飲んだのですが」。（ヨハネの福音書4：11, 12）

この井戸は、地元のサマリヤ人にとっては、神聖な歴史的ランドマークであった。女はヤコブの井戸からの水よりも良い水をイエス様がどの様に与えることができるかを理解していなかった。イエス様は、女の質問に答えられず、むしろ女に何か奇跡的なものを提供し続けられた。

イエスは女に答えて言われた、「この水を飲む者はだれでも、またかわくであろう。しかし、わたしが与える水を飲む者は、いつまでも、かわくことがないばかりか、わたしが与える水は、その人のうちで泉となり、永遠の命に至る水が、わきあがるであろう」。（ヨハネの福音書4：13, 14）

イエス様は、深い霊的な泉（御霊によってつくられた、ヨハネ7：37-39、イザヤ書58：11）について話しておられた。．．．いのちの質、つまり、永遠のいのち。女は、イエス様がヤコブの神聖な井戸からの水よりも優れた水を彼女に提供していたことを理解した。しかし、ニコデモと同様に、彼女もまた、寓話と真実を混同していた。

女はイエスに言った、「主よ、わたしがかわくことがなく、また、ここにくみにこなくてもよいように、その水をわたしに下さい」。（ヨハネの福音書4：15）

イエス様は、この「靈的泉」の必要性が深いことを彼女に示された。彼女は最も深い必要は、人に愛されることであると考えた。しかし、真の必要は、神との個人的な関係を持つことであった。イエス様は、彼女にこの必要を示すために、「彼女の夫」についての討論に変えられた。

イエスは女に言われた、「あなたの夫を呼びに行って、ここに連れてきなさい」。女は答えて言った、「わたしには夫はありません」。(ヨハネの福音書4:16, 17)

その時点まで、女は多くの言葉で会話していた。彼女の1回目の返答は11語(ギリシャ語)であった。2回目の返答は42語であった。3回目の返答は13語であった。そして今、彼女はこの会話を止めるために、わずか3語を用いた。「**Not Have Husband!** (わたしには夫はありません!)」

私たちは、あらゆる自己防衛策を講じる。防御反応のレベルは、自覚の下に隠された痛みや恥の程度を決定づける。私たちの繊細な領域を特定するためには、いくつかの方法がある。「どのような質問やトピックについて会話をするのを避けたいと思うか自問する。」引き金が引かれたときに過剰反応してしまうということは、癒しを必要としている領域である。そうしなければ、生涯、負傷した心の部分に誰も触れさせないようにしてしまう。(イエス様がこの女の心の部分に触れられて、癒すことが出来たことに注目しましょう。)

イエス様は二度、彼女の正直さについて肯定された...

女は答えて言った、「わたしには夫はありません」。イエスは女に言われた、「夫がないと言ったのは、もっともだ。あなたには五人の夫があったが、今のはあなたの夫ではない。あなたの言葉のとおりである」。(ヨハネの福音書4:17, 18)

しかし、イエス様は、彼女の心の最も深いところの傷(拒絶)の上に蓋をすることを許されされなかった。話題を変えることによって偽の平安を与えるのではなく、痛みを満たした関係の世界について真実を明らかにするために、さらに深く掘り下げられた。当時の文化において、女が5回も離婚することは珍しいことであった。ユダヤ人の律法は、たとえ配偶者の死が理由であろうと、3人までの結婚しか許可しなかった。それは、その女が男性によって5回拒絶(離婚)されたことを意味する。申命記24章1-4節は、離婚に関するモーセの律法を記す。サマリア人は、モーセの書を聖書として受け入れていた。しかし、イエス様は、男が激しい心のために離婚を許可したという離婚に関する律法の乱用であると異議を申し立てられた(マタイ19:3-9)。その結果、女は未婚の男と一緒に暮らしていた。彼女がなぜこのような状況にあったかについては定かではないが、彼女は恥をかかえている様である。この女は、イエス様が女の結婚歴を明らかにした後の女の返答に現れている様に、頭が切れる女であった様である:

女はイエスに言った、「主よ、わたしはあなたを預言者と見ます。わたしたちの先祖は、この山で礼拝をしたのですが、あなたがたは礼拝すべき場所は、エルサレムにあると言っています」。(ヨハネの福音書4:19, 20)

女は、自分の人生の話題から、ユダヤ人とサマリア人との宗教的歴史についての論争へと話題を遠ざけるために、30の言葉を用いた。しかし、イエス様は、それをお許しにならなかった。サマリア人とユダヤ人間の紛争に関する説明は手短かに片付けられ、話を元の重要な問題(彼女の心)に戻された。

イエスは女に言われた、「女よ、わたしの言うことを信じなさい。あなたがたが、この山でも、またエルサレムでもない所で、父を礼拝する時が来る。あなたがたは自分の知らな

いものを拝んでいるが、わたしたちは知っているかたを礼拝している。救はユダヤ人から来るからである。しかし、まことの礼拝をする者たちが、霊とまこととをもって父を礼拝する時が来る。そうだ、今きている。父は、このような礼拝をする者たちを求めておられるからである。神は霊であるから、礼拝をする者も、霊とまこととをもって礼拝すべきである」。(ヨハネの福音書4：21-24)

イエス様は、この女を生きた神との関係への転換点に招いておられたのです。神との霊と真理による関係に。ユダヤ人やサマリア人ではなく、エルサレムやゲリシム山についてもなかった。それは真の崇拜者となることであった。「靈的に」崇拜するということは、神の命を与える聖霊が宿る(参照：マルコ7：6)心から崇拜することを意味する。「真実の内に」崇拜するということは、心から礼拝することを意味する(キリストと神のみことばにおける神に関する真の知識をもって)。

この女は、多くの靈的真理については混乱していたが、正しく知っていたことは、いつかメシアが到着し、すべての紛争を解決し、すべての質問に答えてくださるということであった。

女はイエスに言った、「わたしは、キリストと呼ばれるメシアがこられることを知っています。そのかたがこられたならば、わたしたちに、いっさいのことを知らせて下さるでしょう」。イエスは女に言われた、「あなたと話をしているこのわたしが、それである」。(ヨハネの福音書4：25, 26)

イエス様は、この無名のサマリア人の女に「救い主」としての神格を明らかにされた！イエス様は、その女のためにサマリアを通過する決断を下された。彼女の心が収穫のために

熟していたことを知っておられたからである。女はすぐに彼女の新しい救い主を仲間の村人たちと共有したいと思った。

そのとき、弟子たちが帰って来て、イエスがひとりの女と話しておられるのを見て不思議に思ったが、しかし、「何を求めておられますか」とも、「何を彼女と話しておられるのですか」とも、尋ねる者はひとりもなかった。この女は水がめをそのままそこに置いて町に行き、人々に言った、「わたしのしたことを何もかも、言いあてた人がいます。さあ、見に来てごらんください。もしかしたら、この人がキリストかも知れません」。人々は町を出て、ぞくぞくとイエスのところへ行った。(ヨハネの福音書4：27-30)

変えられた女は、村全体を「救世主」である可能性のある人に会わせるために、ヤコブの井戸に行くように熱心に呼びかけた。それを影響力と言う。彼女は無礼な軽視された女ではなく、彼らの律法とは異なり、彼女の証言は有効とみなされた。村全体が彼女について井戸に訪れた！

イエス様は、あなたの心の内に、イエス様を知らない人に、イエス様との「脆弱な」経験を共有したいという願望を見ておられるでしょうか？イエス様は、ご自分のアイデンティティを女に明らかにすることを選択された。それは、彼女の話を通して、ご自身を現される機会が無駄にならないことを知っておられたからである。イエス様が彼女を受け入れられたことによって、更なる恥から女を保護した。その事実はどうのような影響を与えましたか？

その間、イエス様は、従者たちに教える機会を持たれた。

あなたがたは、刈入れ時が来るまでには、まだ四か月あると、言っているではないか。しかし、わたしはあなたがたに

言う。目をあげて畑を見なさい。はや色づいて刈入れを待っている。(ヨハネの福音書4:35)

イエス様は、「目を開いて畑を見なさい」と言われたとき、おそらく村全体が会いに出てくるのをすでに見ておられた。食べ物を買うために村に入った弟子たちは、サマリア人の村の人一人として、イエスに合わせるために連れてくることは出来なかったが、この女は村人全員を連れて来た。

さて、この町からきた多くのサマリア人は、「この人は、わたしのしたことを何もかも言いあてた」とあかしした女の言葉によって、イエスを信じた。そこで、サマリア人たちはイエスのもとにきて、自分たちのところに滞在していただきたく願ったので、イエスはそこにふつか滞在された。そしてなお多くの人々が、イエスの言葉を聞いて信じた。彼らは女に言った、「わたしたちが信じるのは、もうあなたが話してくれたからではない。自分自身で親しく聞いて、この人こそまことに世の救主であることが、わかったからである」。(ヨハネの福音書4:39-42)

貴重なサマリア人の女の物語りは、ヨハネが選んだ物語の中でも際立つ様々な理由の一つは、救世主であられるイエス様を信じる女の心の反応であった。彼女は恥から解放され、直ちに彼女の話をつかち合いたいと思った。

もう一つの理由は、この女の改宗が初期の教会における信者の後のサマリア人の運動の基礎を築いたからである。イエス様が天に昇天した日に、多くの弟子たちにこう告げられた。ただ、聖霊があなたがたにくだる時、あなたがたは力を受けて、エルサレム、ユダヤとサマリアの全土、さらに地のはてまで、わたしの証人となるであろう」。(使徒の働き1:8)その後、迫害された信者が福音を伝えるためにサマリアに広がっ

たとき(使徒の働き第8章)、この女を通して、人々の心にすでに種が植えられていることを知った!

私たちの多くは、ボーイフレンドやガールフレンド、夫や妻との関係によって、心の中の神の形の穴を埋めようと努めたことがあるでしょう。しばらくは、満たされるかもしれない。しかし実際には、人間の心の内の神の穴を人間が埋めることなど不可能である。「すべての人の心の中には、神の形の空白があり、決して被造物によって満たされることはない。それは神によって満たされなければならない。」(Blaise Pascal)。ロックグループU2のボノは、この空白を「神形の穴」と呼んだ。「鎮まるときに、欠けているものに気が付くことが出来る。」あなたは神形の穴に何を埋め込もうとしておられますか?

討論のための質問

1. ニコデモスとのイエス様の会話について、最も影響を与えたのは何ですか? あなたが住んでいる世界とあなたが交流している人々とこの話とのどんな関連性が見えますか?
2. サマリア人の女と会話されたときの方法から、イエス様について何を学びましたか?
3. サマリア人の女の物語は、あなたの過去の恥ずべき事柄の処理について何を教えてくれましたか?